

理学療法の対象領域の多様化が指摘されて長い時間が過ぎた。様々な障害、疾病が対象領域として認知され、それらに対する治療アプローチも多彩になってきている。しかし日々の臨床の中での脳卒中例に対する理学療法的重要性は、このような領域の多様化においてもとりわけ強調されえらう。その一方で、主要な疾病であるがゆえにパターン化した治療に陥る危険がないとはいえない。常に斬新な変革が求められる所以である。

そこで本特集では「脳卒中中の理学療法の展開」と題して、新しい展開がいくつかの異なった立場から論じられている。まず潮見論文では「評価と理学療法効果」に関して理学療法モデルの再検討がなされている。このなかで特に評価モデルの検討において、脳卒中中の標準的な帰結測定指標の全国調査では、国際的に使用されている指標がわが国ではほとんど使われていない、という衝撃的な指摘がなされている。科学的根拠に基づく理学療法を確立するためには「腕よりはじめよ」ではないが、足元の地道な評価から開始すべきであると痛感する。山中論文ではスリングセラピーの極めて臨床的な適用法が紹介されている。環境適応とフィードバックについて示唆に富む論文となっている。山田論文は、「体力科学的」という新しい方法論について、測定機器、筋力、移動自立度、フィットネストレーニングの点から論じられている。運動麻痺が比較的重度の症例の患側脚筋力の測定意義はこれまで報告されていない分野であり興味深い提言がなされている。岩崎論文では、「ドリームブレース」の特性と適応と効果について症例を例示して解説されている。さらなる臨床応用が期待できると思われる。加茂野論文では、新開発された治療的電気刺激である筋電制御型電気刺激システムの紹介とその効果に関する検証が報告されており、筋活動パターンの変化をもたらすという。出江論文では、脳の非侵襲的刺激法である、経頭蓋磁気刺激の基本的特性と片麻痺治療の背景について解説されている。この領域の著しい進歩を実感するに違いない。

入門講座は荒木論文「脳血管障害患者の動作分析」であり、特集とテーマが近接している。そのなかで「なんでだろう分析」の重要性が述べられ、例えば立ち上がりができないので立ち上がり練習を行う、という動作分析の軽視について痛烈に批判されているが、小生もまったく同感である。ぜひ本文をご覧ください。講座は「実践・人事評価」の第2回目であり、松田氏は目的別評価の重要性を強調している。その中で実績を上げる過程をよく観察すること、またその人にどのような目標が課されているかが肝要であるとしている。この文脈によれば、「人事評価」を「動作分析」に置き換えてもなんら不都合はないように見える点で大変興味深い指摘である。

新しい治療法と伝統的な治療法の間で、われわれは常に振幅を繰り返すだろう。「とびら」で久保田氏が指摘するように、「理学療法士しか持っていない受容器の閾値」に照らして患者さんの発信を広く受け取ることを振幅の中心にすることが、ひいては科学的根拠に基づく理学療法を確立する王道だろう。

(網本 和)

理学療法ジャーナル

(第37巻 第8号)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

2003年8月15日発行(毎月1回15日発行)

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通(03)3817-5703

(担当:平岡・山崎)

定価(本体 1,700 円+税)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

〔2003 年年ぎめ予約購読料 20,880 円〕
(配送料弊社負担)

ファクシミリ(03)3815-7802

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

振替口座 00170-9-96693 番

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

印刷所 三 報 社 印 刷(株) ☎(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2003, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・ JICLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

●編集顧問●

上 田 敏
五味 重 春
津 山 直 一
福 屋 靖 子
横 山 巖

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
安 藤 徳 彦
内 山 靖
大 川 弥 生
高 橋 正 明
鶴 見 隆 正
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 橋 光 二
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 橋 ゆかり
大 峯 三 郎
岡 本 哲 夫
岡 本 慎 哉
菊 地 延 子
木 山 喬 博
日 下 隆 一
工 藤 俊 輔
酒 井 桂 太
佐々木 伸 一
佐 藤 秀 一
澤 田 三津子
高 口 光 子
高 田 京 子
寺 山 久美子
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 尾 哲 男
長 澤 弘
永 富 史 子
中 村 春 基
橋 元 隆
濱 出 茂 治
備 酒 伸 彦
福 田 恵美子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
宮 本 省 三
諸 橋 勇